学んだ知識を実践へ活かす

国保診療施設協議会看護師部会総会・研修会

国保診療施設協議会看護師部会総会・研修会は３月７日（土）に、府国保連合会にて府国保診療施設より７３名の看護師が集まり開催された。

開会にあたり、京丹後市立弥栄病院の梅田美恵子部会長は、医師・看護師不足が問題になっているなか、多くの参加に対して喜びと感謝を述べ、また研究発表等はこれからの知識となるので実践に役立ててほしいと挨拶した。

研究発表では、公立山城病院の村上友子看護師は「カテキン水を使用した臭気軽減へのアプローチ」、森川清子看護師は「尿・痰・ドレーンからの排液を見られる患者、目にする患者の意識調査～排液バッグカバーがもたらす羞恥心・視覚的不快感の効果についての検討～」と題して発表した。公立南丹病院の平山富美子看護師は「白内障老人患者に対する看護師の意識調査～看護師の意識の変化・向上を目指しての働き～」、金田ひろみ看護師は「おしぼり清拭の導入を試みて～スタッフの看護ケアに対する意識調査～」のテーマで発表した。また京丹後市立弥栄病院の山崎きよ子看護師は「廃用症候群にある患者へ腹臥位療法を取り入れて」、京丹後市立久美浜病院の冨田和子主任看護師は「上部消化管内視鏡検査の前処理である咽頭麻酔方法の新しい試みとその評価」と題して研究発表を行った。

その後は神戸市看護大学基盤看護領域の高田早苗教授が「看護実践をより豊かにするために」と題して事例を挙げ、介護実践を豊かにする具体的方法を講演した。

講演をする高田教授